

若者流出に思うこと



広島県公立大学法人
県立広島大学 学長
県立広島大学同窓会 名誉会長

森 永 力

国立社会保障・人口問題研究所が一年十二月に公表した「日本の地域別将来推計人口（二〇二三年推計）」によると、広島県の人口は出生数の減少に伴う「自然減」に加えて転出超過に伴う「社会減」により、二〇二〇年の二百八十八万人から二〇五〇年には二百二十三万人へと五十七万人減少すると推計されています。一方、総務省の「住民基本台帳人口移動報告」によると、二〇二三年の広島県の社会増減はマイナス一一、四〇九人となっています。この数値には、国外との転出入は含まれていませんが、三年連続で全国一位の減少となっています。そして、広島県の社会減少数が最多の年齢層は「二十（二十四歳）で、二〇二三年はマイナス三、一六七人で十年前の二〇一三年はマイナス一、六五三人でしたから、一、五〇〇人ほど転出者が増えています。

この年代の流出が多いことには、県内に就職を希望する企業が少なかつたり、街に魅力を感じにくかつたりと、様々な要因が考えられます。また、首都圏の企業がオンラインの採用活動で、地方の学生の獲得に力を入れていることも要因の一つと考えられます。街の魅力でいえば、アイドルや音楽ファンの間で話題に上る、コンサートやライブのいわゆる「広島飛ばし」も要因の一つと考えられます。コンサートプロモーターズ協会の調べでは、二〇二三年のコンサートなどの公演回数は、大阪が六、〇〇二回、福岡が一、五七五回で、広島は七二一回でした。宮城は一、二四三回なので、福岡の半分以下、宮城の六割の公演回数でした。他の地方中枢都市と比べても、広島は公演回数は明らかに少ないですが、広島市に受け皿がないわけではありませ

ん。収容人数千人以上の施設は六つあります。中でも広島グリーンアリーナが最大で、約一万人収容できます。ただ、二三年度のグリーンアリーナでの公演回数は十八アーティストの三十一回に留まっています。広島グリーンアリーナについては、この業界で日本一公演予約するのが難しいと言われていました。予約が取れない理由の一つは、広島グリーンアリーナを所管する広島県が、有料興行の日数を年間十%以内と定めているからです。これは開館している日の約二割しか興行には使えないということです。本来は県民スポーツのための施設だからという理由のようです。

ところで、広島県の若者は、大学卒業時に大都市に転出する者が多く、その傾向は男子よりも女子に強いというデータがあります。その要因分析を行ったアンケート調査「広島県の若者が大都市に流出する要因分析」広島文教グローバル、四号、四十九〜五十八（二〇二〇）」があります。そのアンケート調査結果によると、学生の半分が広島県外への就職を希望しているが、その理由として①就職したい業種・職種・企業が県内にない（企業の問題）、②都会に住みたい（街の問題）、③実家に戻る（個人の問題）、などがあげられています。①の学生が希望している業種としては、IT、情報通信業、放送、出版などがあり、②では、広島の魅力とそして広島に不足しているものを尋ねていますが、広島は自然、食、街の大きさ、そして商業施設には満足していましたが、ライブ公演やテーマパークには強い不満が示されていました。旅行についての質問では、一年間に平均約三回、県外に旅行しているが、行先は、東京圏、大阪圏、福岡圏が全体の七割で、旅行目的の四割がライブ公演でした。グリーンアリーナ並みの大きさで、音楽イベントに使える新たなコンサート専用の施設ができれば、福岡並みの数のコンサートが開催でき、若者の流出が少しでも防げるかもしれません。

ちなみに、本学の令和六年三月の卒業生は、五四・三%が県内に就職しています。本学では、一年次からキャリア教育科目を配置し、また就職支援事業として、就職ガイダンス、キャリア相談、業界研究会、企業説明会、公務員対策講座などを行い、全学生の就職サポートを行っているところです。県立の大学として、これからも広島県内の企業を支える人材の育成に努力したいと思っています。少しでも若者の県外への流出を防ぐためにも、県内企業の方をはじめ、卒業生の皆様のご支援を心からお願いする次第です。